

資料2-3

災害の種類と必要な対策

災害の種類	必要な対策
ロープがほどけて墜落	①メインロープとライフラインの2系統のロープを用意し、それぞれ異なる緊結元（堅固な支持物）に緊結すること。 ②ロープと緊結元とを作業中に外れない方法で確実に緊結すること。 ③ロープと緊結元との緊結状況を複数名で確認すること。 ④作業者に対し、必要な安全衛生教育を行い、作業時に①～③の事項を確実に行わせること。
ロープが切れて墜落	①作業に使用するロープについて、点検項目、点検方法及び使用基準を定め、着実に管理すること。 ②作業前用具点検を行い、異常が認められたロープについては使用しないこと。 ③ロープと建物等との接触による摩耗が生ずるおそれのある箇所には、確実に養生を行うこと。 ④ロープと建物等との接触による摩耗が生ずるおそれのある箇所に養生を行った状況を複数名で確認すること。 ⑤作業者に対し、必要な安全衛生教育を行い、点検時及び作業時に①～④の事項を確実に行わせること。
親綱と安全带との接続が外れて墜落	①作業に使用する安全带及び接続具について、点検項目、点検方法及び使用基準を定め、着実に管理すること。 ②作業前用具点検を行い、異常が認められた安全带及び接続具については使用しないこと。 ③地上（法尻）まで到達するだけの十分な長さをもった親綱を使用すること。 （④親綱の末端部に結び玉（結び目）を設けること。） ⑤ライフラインに安全带を確実に接続し、墜落時に安全带及び接続具が有効に機能する状態で作業を行うこと。 ⑥ライフラインと安全带の接続状況を複数名で確認すること。 ⑦作業者に対し、必要な安全衛生教育を行い、作業時に①～⑥の事項を確実に行わせること。
親綱と安全带との接続を外した際に墜落	①作業中に親綱と安全带との接続を外す必要のない作業計画（親綱と安全带との接続が外れる瞬間が生じないような作業計画）を立てること。 ②作業中に親綱と安全带との接続を外さないこと（墜落時に安全带及び接続具が有効に機能する状態で作業を行うこと。） ③作業者に対し、必要な安全衛生教育を行い、作業時に①～③の事項を確実に行わせること。 ④作業指揮者を置き、作業時に作業者が親綱と安全带との接続を外すことのないよう、監視させること。
準備作業中、安全带未使用状態での墜落	①作業場所への入場については、墜落のおそれのないルートを選定すること。 ②入場後、最初に、準備作業中の墜落を防止するための措置（安全帯着用、親綱の緊結・確認、安全带と親綱の確実な接続）をとってから準備作業を開始すること。 ③①及び②を含む作業計画を立てること。 ④作業者に対し、必要な安全衛生教育を行い、作業開始時に③で立てた作業計画に従った作業を確実に行わせること。 ⑤作業指揮者を置き、作業開始時の実施事項を確実に作業者が行うよう、監視させること。
胴ベルト型の安全带を使用しての作業中、墜落時の衝撃により内臓が圧迫されての被災	①荷重を全身に分散するハーネス型安全带や墜落時の衝撃を軽減するためのショックアブソーバ付きの安全带を使用すること。 ②作業者に対し、必要な安全衛生教育を行い、作業時に安全带を有効に機能する状態で確実に装着させること。